駐日ポーランド共和国大使館

ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO

POLAND+JAPAN 100

2020 年 5 月 15 日

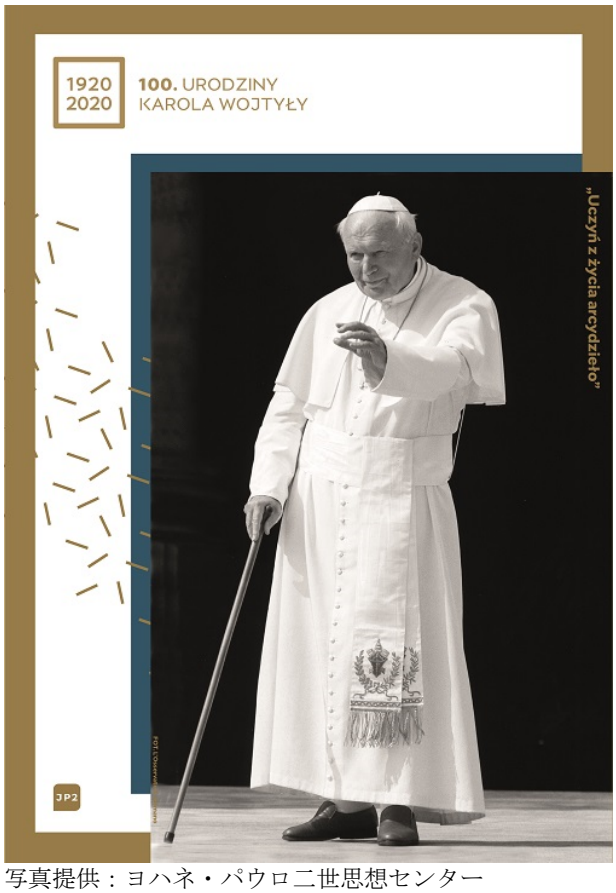
駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

ニュースリリース

ヨハネ・パウロ二世生誕 100 周年　（1920 年 5 月 18 日）。
ポーランド初の教皇、世界中で愛された人物。その生涯を振り返る展示を発表

2020 年 5 月 18 日は、カロル・ヴォイティワ（Karol Wojtyła / 1920－2005）、すなわち**聖ヨハネ・パウロ二世の生誕百周年記念日**です。彼は、2019 年の第 82 会期ポーランド共和国国会で議決された、2020 年を**聖ヨハネ・パウロ二世記念年**に定める法律によれば、「ポーランドを共産主義の桎梏から解放する戦いに貢献した我らの偉大なる同胞」でした。

上記法律の条文に特記されているのは、1979 年のヨハネ・パウロ二世最初のポーランド巡礼の最中に、やがて「連帯」成立、共産主義支配からの国民の解放、そしてヨーロッパ統一の再建に結実することになる、一連の過程が始まったことです。聖ヨハネ・パウロ二世が生涯に果たしたすべての使命を結びつけるのは、他者への全き信頼に満ちた人道的な伝達、そして文化的・思想的差異を越えた対話と理解の必要性への確信です。



写真提供：ヨハネ・パウロ二世思想センター
（Centrum Myśli Jana Pawła II）

教皇ヨハネ・パウロ二世の列聖式は、2014 年に催されました。

「巡礼する教皇（空飛ぶ聖座）」と呼ばれたヨハネ・パウロ二世は、司牧として世界の隅々まで計 104 回の旅に出ました。教皇が初めて、歴史的な日本訪問を果たしたのは、1981 年 2 月 23－26 日です。主な滞在日程は、次の通りでした――東京での聖職者・信徒との集い、ゼノン・ジェブロフスキ（ゼノ）修道士との出会い（2 月 23 日）、天皇を表敬訪問したこと、鈴木善幸首相の表敬を受けたこと、東京・武道館での「ヤング・アンド・ポープ大集会」（2 月 24 日）、上智大学訪問、広島での「平和と核兵器廃絶のアピール」（2 月 25 日）、聖マクシミリアン・コルベが長崎に設立した「無原罪の園」修道院訪問（2 月 26 日）。日本訪問は今も日本人の記憶に刻まれ、2019 年 11 月のフランチェスコ教皇の日本訪問の際には、多くの人々が言及しました。

ヨハネ・パウロ二世と、1930 年に聖マキシミリアン・M・コルベとともに日本に到着し、当時すでにとても高齢だったゼノ修道士との出会いでは、教皇は車椅子に座っているゼノ修道士の前に身を屈め、「私は教皇です、ポーランド出身の教皇です」と言いました。ゼノ修道士は、ポーランド人教皇との出会いに感激のあまり、涙を流して、「教皇、教皇」と繰り返すのみで、それ以上何を言うこともできませんでした。

日本滞在中に、教皇はミサを司り、日本語で 13 の説教と演説を行いました。

ポーランド人教皇の日本訪問をテーマに、日本の映画監督・千葉茂樹の記録映画『平和の巡礼者　ヨハネ・パウロ二世』（1981）が作られています。

ポーランド人教皇の記憶を大切にするために、2015 年に駐日ポーランド共和国大使館は、コミック「ポーランドの偉人たち」シリーズの一つとして聖ヨハネ・パウロ二世についての号を出版し、2016 年の教皇日本訪問 35 周年には、ポーランド広報文化センター、ポーランド共和国大使館は、上智大学との共催で、シンポジウム「ヨハネ・パウロ二世の平和アピールと現代世界」を開きました。日本では G・バティアート監督の映画『カロル――教皇になった男』の日本語字幕付き DVD が入手可能です。

写真提供：ヨハネ・パウロ二世思想センター
（日本語版の展覧会のポスターです）

聖ヨハネ・パウロ二世記念の年に、ポーランド広報文化センターは、ワルシャワのヨハネ・パウロ二世思想センター制作のパネル展示「生誕 100 周年記念――ヨハネ・パウロ二世の生涯」（原題「カロル・ヴォイティワ――誕生」）の日本語版を作りました。展示の目的は、歴史の流れに影響を与えた人物を記憶に刻み、聖ヨハネ・パウロ二世の生誕、その生涯のさまざまな出来事、人間性と思想を示すことにあります。展示（パネル 10 枚）は、私たちを、教皇聖ヨハネ・パウロ二世の生涯の節目となったときをめぐる旅へと案内します。

展覧会は以下のリンクをご覧ください（ポーランド広報文化センターのホームページ）：

https://instytut-polski.org/?p=10476

（新型コロナウイルス蔓延の緊急事態により、パネル展示は、期日を延期して、東京の 3 大学で開かれます）

聖ヨハネ・パウロ二世生誕 100 周年を機に、本年 5 月 17 日に、東京大聖堂で、タルチシオ菊池功大司教が記念ミサを司る予定でした。日本国内に緊急事態宣言が出されているため、ミサは後日に延期されます。

カロル・ヴォイティワ生誕 100 周年の標語は、1999 年にヨハネ・パウロ二世が芸術家に出した手紙の一節を借りた「**人生から傑作を作りなさい**」です。

文：ポーランド広報文化センター

駐日ポーランド共和国大使館

https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada

tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl

Twitter: @PLinTokyo

Facebook: Ambasada RP w Tokio

ポーランド広報文化センター

https://instytut-polski.org/

tokio@instytutpolski.org

Twitter: @PLinst_Tokyo

Facebook: Instytut Polski Tokio